

## 「先にやる」or「先に結果を考える」

横浜デザイン学院  
朱杭珈

授業中日本語学校の先生に日本に来て一番感じたところは何だと聞かれた時、意外と「不便さ」と声は多かった。『中国ではいつでもどこでも出前を頼めるより日本では店の開店時間は遅くて閉店時間は早くて非常に不便です』『中国では基本的にどこでも誰にも(アリペイのアカウントを持つ方であれば)アリペイで支払えるより日本ではいろいろな支払い方法があるがどこでも利用できるわけではない』などに先生はあまりにも意外で思わずエッと叫んでしまった。

日本人から見れば出前だと食材の安全性は保証できないし、アリペイだと個人情報の流出は避けられないかもしれない。確かに中国でも出前やアリペイによる課題もいくつかできている。ただし、便利さから見れば確かに中国で生活しやすいところも沢山ある。

何か新しくできたものに対して、中国人のほうは「まずは試してみて結果は後で考える。課題ができてから解決対策を立つ」と比べて、日本人は「まず可能な結果を考える。事前対策を立つ」という場合は多い。つまり、中国人の新しい物事に対する受け入れ程度及びスピードは日本人より高いと考えられる。どちらがいいのかは人のそれぞれの考え次第である。確かに事前対策などを通していろいろな課題は避けられるが、それと同時に新しいもの発展に壁を作る可能性も高い。

2018年日中韓サミットによって両国関係は正常化の道に戻し、今後日中貿易連携や経済的な交流もだんだん増えていくと思われる。その中で、特に私達日中若者層の交流は欠けられないものである。経済発展への新たな推進力として、現在中国で「大衆創業・万衆創新」という構想はブームとなっている。大学生起業の現象もますます多くなってきた。起業の結果はさておいて、若者によるイノベーションは高まりつつある。一方、日本では起業より就活のほうは若者に好まれている。原因として「起業基金はない」「就職のほうは安心できそう」などは挙げられている。日系企業の中国進出などは少なくないが、日中若者による共創発展モデル事業はやっぱり足りないと考えられる。

中国人の「先にやる」のスピードに日本人の「先に結果を考える」の品質を加えればより創造発展的なイノベーションが実現できるではないか？日中共同で未来を創造する創発イノベーションの担い手として、地球的な課題解決と中日両国及び世界経済の発展・成長に貢献することは望まれているであろう。